

平成29年度 学カスタンダード指導計画・報告書

教科：(理科)科目：(化学基礎) 対象：(第1学年A組～E組)

科目担当者：(A組:印)(B組:印)(C組:印)(D組:印)(E組:印)

教科・科目の指導目標	化学を学ぶことによってそれらの物質の構造・特徴や製法などが理解できることを気付かせるように指導する。日常生活や社会において化学がどのように活用されているかを理解する。
------------	---

	高校入試等の分析結果・前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	<p>化学的領域について、基礎的・基本的な事項の知識・理解をみるとともに、実験を通して科学的な思考力や表現力をみる。大問5に関して分析した。</p> <p>〔問1〕基礎的な2種類の実験結果から物質の性質を予測する問題では、分析する力は高いという分析結果となった。</p> <p>〔問2〕加熱した後の物質の性質及びその物質の化学変化を原子モデルで表す問題では、表現する力はやや高いという分析結果となった。</p> <p>〔問3〕化学変化の定義について酸化・還元の観点から論述する問題では、記述式の問題でありながらも正答率は高かった。</p>	<p>①身の回りにある自然現象を、理論的、科学的に考え、分析する力を身につけさせる。</p> <p>②自然科学の基礎知識の定着を図る。</p> <p>③身近なところで起こっている様々な現象について、その背景や理由を考える習慣を身につけさせる。</p> <p>新カリキュラムの導入で、イオンに関する学習が中学で復活した。丁寧な復習を行い高校の学習へスムーズに移行できるよう工夫し苦手意識を抱かせないよう努める。今回の入試問題にも出題された酸化・還元においても大切な電子の受け渡しとイオンの関係は理解しにくいので、様々な方法で注意深く学習していく。物質量は高校化学の基本になるので繰り返し問題を解くなど工夫をする。</p>	<p>①基本事項の定着に重点を置いた授業計画を立て、それに沿った定期考査を実施する。</p> <p>②問題演習を通して、必要とされる基礎知識を認識させると共に、その定着を図る。</p> <p>③定期考査に向けた準備の仕方を指導すると共に、希望者に考査前の補習や長期休業中の講習を行う。</p> <p>④大学生スタッフによる考査前の学習支援、自習室での取り組み、放課後の指導を通して、基礎力や応用力の不足を補う。</p> <p>⑤勉強合宿等で、日頃取り組みない入試問題や、論理的思考を要する問題に取り組みさせる。</p>

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			